

2022 年度学習時間等に関する調査について（総評）

2022 年度は 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）の影響により、Web でアンケートを実施した。2019 年以前は授業中に紙面で実施していたため、回答者の性質が異なっていること、さらに学科によって回答者が異なっていることに留意する必要がある。

その上で、2022 年度の特徴としてまずあげられるのは、前年度の調査結果に比べ、全体的に【授業・実習】の時間数が増加し、COVID-19 前へと水準が戻りつつある点である。これはコロナ禍ではあったものの、2021 年度とは異なり、2022 年度はハイブリッド授業も行われていたが、より対面での受講割合が多くなったことが主な要因と考えられる。なお、【授業・実習】が増加した反面、【準備学習、復習】が減少に転じている傾向も確認することができる。

このように、未だコロナ禍特有の傾向も見られるものの、全体的に見ると、学生が、コロナ禍前と変わらず、【授業・実習】と同等あるいはそれ以上の時間を、【アルバイト・仕事】や【趣味活動】に費やしている様子がうかがえる。単位制度の趣旨に基づき、学生の授業受講時間数や、授業外学習時間数を適切に確保するため、カリキュラムや授業方法の見直し、授業外学習を促すための工夫など、今後も教育改善に努めていく必要がある。